

新座市洪水・土砂災害ハザードマップ

Map of flood disaster areas and Landslide warning areas in Niiza city
新座市洪水災害、泥石流災害危険地図

新座市洪水災害、泥石流災害危険地図

～自分の安全は自分で守る 自分たちのまちは自分たちで守る～

この地図は、荒川、柳瀬川、黒目川が氾濫し洪水が発生した際の浸水の状況と、土砂災害（特別）警戒区域（がけ崩れにより被害を受けるおそれがある場所）、風水害時における避難場所の位置を示したものです。

河川の氾濫については、想定最大規模の大雨（おおむね1000年に1度程度の確率で発生すると考えられる大雨）が降った場合を想定したものです。

この地図で自宅の周辺の災害リスクや、避難場所・避難経路を確認し、いざというときに適切な行動がとれるよう備えてください。

- 作成のもととした洪水浸水想定区域等
 - ・荒川水系荒川洪水浸水想定区域図（作成主体：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所・荒川下流河川事務所 平成28年5月30日指定。荒川流域の72時間総雨量632mm）
 - ・荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図（作成主体：埼玉県県土整備部河川砂防課 令和2年5月26日指定。新河岸川流域の2日間総雨量746mm）
- （参考）アメダス所沢観測所では、令和元年東日本台風（台風第19号）接近時に72時間で362.5mmの降水量を記録しています。



【平成30年7月豪雨による水害の状況（朝日新聞）】

このマップの利用方法

このマップを参考にして、以下の項目を確認してみましょう。

- 自宅やよく行く施設、場所、よく通るところの浸水やがけ崩れの可能性
- 避難する場所や避難経路
- 避難の目安となる情報ととるべき行動
- 洪水・土砂災害時の避難方法

新座市では、9月の第1日曜日を「新座市家族防災会議の日」と定めています。各家庭で、防災への取組みについて話し合い、あわせて、地域の自主防災組織や、防災訓練・避難訓練への積極的な参加を検討してみてください。

保存版

発行：新座市

発行年月：令和6年3月
〒352-8623 埼玉県新座市野火止一丁目1番1号
電話番号：048-477-2502
ホームページ：https://www.city.niiza.lg.jp/site/bousai/03520001-dcsyuuai-gal-hazardmap.html
問合せ先：危機管理課

2 避難の際の心得

心構えと準備

●避難場所と避難経路の確認を
日頃から、洪水・土砂災害時の避難場所と安全に移動できる避難経路を確認しておきましょう。浸水の状況の変化に備え、複数の避難経路を考えておきましょう。

●正確な情報収集と自主的避難を
ラジオ・テレビ、インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。雨の降り方や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

●避難の呼びかけに注意を
危険が迫ったときには、市役所や消防署から避難を呼びかけることがあります。呼びかけがあったときは、速やかに避難しましょう。

●避難する前に
あわてず冷静に周囲の状況を確認しましょう。避難する前には、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉め、火の始末をしましょう。

避難時の心得

●動きやすい服装で2人以上での避難を
避難するときは、動きやすい服装で避難しましょう。また、単独行動は避け、2人以上での避難を心がけましょう。

●はき物に注意を
裸足、サンダル、長靴は危険です。歩きやすい運動靴で避難しましょう。

●水深や流れの強さに注意を
歩くときは、水深や流れを考慮し、無理をしないようにしましょう。歩くことができる深さは、男性で約70センチまで、女性で約50センチまでです。

●段差や溝に注意を
避難するときは、できるだけ浸水していない道路を選びましょう。また、浸水している場所は、溝や水路に十分注意しましょう。

1 避難の目安となる情報

雨の強さの目安

降雨状況を踏まえ、河川の増水などにより洪水が起きる可能性に注意しましょう。

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に10～20mm未満	1時間に20～30mm未満	1時間に30～50mm未満	1時間に50～80mm未満	1時間に80mm以上
ザーザーと降る雨	どしどし降る雨	バケツをひっくり返したように降る雨	滝のように降る（ゴゴーと降り続く）雨	息苦しくなるような圧迫感がある、恐怖を感じる雨
この程度の雨でも長く続く時は注意が必要となる。	雨雲や雲木（グレーチン）の小さな川があるが、小規模の雨が降る。	山崩れが起きやすくなる。避難準備が必要となる。道路が川のようになる。	都市部では地下空間に雨水が溜まり、マンホールから水が噴出する。水かさが増え、浸水が発生する。	雨による大規模な災害が発生するおそれがある。浸水や土砂災害の発生が懸念される。

避難情報の種類

雨により、河川が増水し、洪水が起きたり、がけ崩れが発生するおそれがあります。新座市は、埼玉県と気象庁が共同で発表する「氾濫警戒情報」や「土砂災害警戒情報」に基づき、時間帯や降雨状況等を総合的に判断した上で、避難情報（レベル3以上の行動を促す情報）を発令することがあります。

警戒レベル	行動を促す情報	状況	住民がとるべき行動
5	緊急安全確保	災害発生又は切迫	命の危険、直ちに安全確保
4	避難指示	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難
2	大雨・洪水注意報	気象状況悪化	自らの避難行動を確認
1	警戒レベル	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを確認

洪水や浸水、土砂災害のおそれがある場合、夜間や道路冠水等で避難場所への立ち退き避難が困難な場合には、あらかじめ確認しておいた近隣の安全な場所へ避難してください。それが困難な場合には、その時点で居る建物内で可能な限り高い場所へ緊急避難してください。

VACAN（リカン）



基準水位

避難に関する情報は、河川の水位の上昇を参考に発令します。

河川	水位観測所	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
荒川	治水橋	7.00m	7.50m	12.20m	12.70m
柳瀬川	清柳橋	19.15m	19.65m	20.53m	20.87m
黒目川	浜崎	5.10m	5.80m	-	6.04m

上記基準水位は令和2年のものであり、今後変更されることがあります。

水防団待機水位：水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位
氾濫注意水位：水防団が活動して河川の氾濫にあたる水位
避難判断水位：レベル3 高齢者等避難の発令の目安であり、避難に時間がかかる方が避難を開始する水位
氾濫危険水位：レベル4 避難指示の発令の目安であり、河川が氾濫するおそれのある水位

○河川の最新の水位は「国土交通省 川の防災情報」で確認できます。治水橋水位観測所、清柳橋水位観測所、浜崎水位観測所の水位は裏ページ（マップ面）で確認できます。

○災害が発生した場合又は発生するおそれがある場合、正確な情報を取得し、災害から自らを守る事が重要です。市では様々な手段を用いて市民の皆様への情報提供に努めますが、市民の皆様においても、情報の取得に努めていただくようお願いいたします。緊急情報の取得については、以下の二次元コードをご参照ください。



急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）の兆候現象



- 斜面に亀裂ができる
- 斜面にはらみがみられる
- 普段浸んでいる湧き水が濁ってきた、水の吹き出しがみられる
- 湧き水の急激な増加あるいは減少・枯渇が認められる
- 小石が斜面からばらばらと落ち出す
- 斜面から異常な音、山鳴り、地鳴りが聞こえる

土砂災害について

○土砂災害の種類
土砂災害は、「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」、「土石流」、「地すべり」の3つに分かれ、何日か続く大雨や大雨、突然の集中豪雨及び地震によって発生し、全国各地で発生しています。新座市で発生するおそれがある土砂災害は、急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）のみです。

○土砂災害防止法
土砂災害防止法（土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律）は、土砂災害から国民の命を守るため、土砂災害のおそれがある区域を法律で指定し、危険の周知・警戒避難体制の整備をしていくものです。また、著しい土砂災害が発生すると予想される区域では、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転の促進などのソフト対策を推進しようとするものです。

○土砂災害警戒区域（イエローゾーン）
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがある土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、地域防災計画に基づいて土砂災害に関する危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

○土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）
土砂災害警戒区域のうち、著しい危害が生じるおそれがある土砂災害防止法で指定された区域です。指定されると、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等の措置が講じられます。

情報の入手先
各機関が発表する情報は、テレビ・ラジオのほか、インターネットでも入手することができます。これらのホームページなどから積極的に情報を収集しましょう。

- 新座市公式ページ
https://www.city.niiza.lg.jp/
- 埼玉県公式ページ（危機管理・防災・防犯等）
https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen/index.html
- 気象庁公式ページ（防災情報）
気象警報・注意報、大雨・洪水警報の危険度分布、指定河川洪水予報、土砂災害警戒情報、雨量の動き（高解像度降水ナウキャスト）など
http://www.jma.go.jp/jma/menu/menu/flash.html
- 国土交通省川の防災情報（市町村版【新座市】（河川の水位と雨量の状況））
https://www.river.go.jp/kawabou/html/map/gk/1101/1101230/ipGaikyMap_t01101230_fw0.html

避難情報の伝達系統
気象庁・気象庁 気象情報・気象庁の発表 → 国土交通省 国土交通省の発表 → 新座市 新座市の発表 → 住民 住民への伝達

（参考）防災無線の放送内容は、フリーダイヤル（0120-8623-399）で確認できます。

3 要配慮者への支援

高齢の方、身体の不自由な方など、情報の把握や避難の行動に時間がかかる方は、早めに避難をする必要があります。これらの方が早めに避難できるように支援しましょう。また、避難に際し、近所に援助を必要とする方がいるときは、その避難にも協力しましょう。

●高齢の方・病氣の方には
車いすや応急の担架などを使い、2人以上で避難に協力しましょう。緊急の際は、ロープなどを使い背負って避難しましょう。

●目の不自由な方には
まず、「お手伝いしましょうか。」などと声をかけましょう。次に、杖を持っていない側になり、案内者の腕を軽く持ってもらいながら、半歩前をゆっくりと歩きましょう。

●耳の不自由な方には
近くへ行って、相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきりと動かして話しましょう。また、紙に書く、身振りをするなどで情報を分かりやすく伝えましょう。

●体の不自由な方には
車いすでの避難には、必ず3人以上で協力しましょう。階段を上がるときは車いすが前向きに、下がる時は車いすが後ろ向きになるように避難しましょう。

●外国の方には
声をかけ、言葉が通じないときは、身振り手振りを交えて話しかけるなどして、孤立しないようにしましょう。

●妊婦・乳幼児には
妊婦や乳幼児がいるときは、避難の行動が遅れることがあります。避難する際は地域の皆さんで協力して助け合います。

4 予想される浸水の継続時間

【柳瀬川】

浸水継続時間
●～12時間
●12～24時間(1日間)
●24～72時間(3日間)
●72～168時間(1週間)

【黒目川】

浸水継続時間
●～12時間
●12～24時間(1日間)
●24～72時間(3日間)
●72～168時間(1週間)

この図は、想定最大規模の降雨の際に、畦境や越水等の河川氾濫が生じ、ある地点に氾濫水が到達し、その浸水の深さが50cmに達してから50cm未満となるまでの時間の最大値を示すものです。時間の最大値については、荒川水系荒川洪水浸水想定区域図のものと、荒川水系新河岸川流域洪水浸水想定区域図・水害リスク情報図のものを比較し、より長い方を反映させています。浸水継続時間が72時間を超える地域では、河川の氾濫により孤立する可能性があります。原則として浸水想定区域外への立退き避難を行ってください。

©NTTインフラネット